

8725

MS&ADホールディングス
MS&AD INSURANCE GROUP

MS&ADホールディングス



取締役副社長執行役員 グループCFO 藤井 史郎 氏



～世界トップ水準の保険・金融グループの創造に向けて～

多様な事業を展開する保険持株会社

- 三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保、三井ダイレクトの3つの損害保険会社、三井住友海上あいおい生命、三井住友海上プライマリー生命の2つの保険会社などを傘下に持つ保険持株会社です。
- 国内損害保険事業、国内生命保険事業の他、海外事業、金融サービス事業、リスク関連サービス事業など5つの事業ドメインで事業を展開しています。
- 現時点では国内損保事業が中心ですが、成長分野の国内生保事業および海外事業も確実に成長しています。
- **国内とASEANで損保シェア1位、英ロイズでも2位**
 - ・国内損保シェアはグループとしては33%でシェア1位。海外でもASEAN地域合計の損保シェア1位、英のロイズ損害保険市場でも59社中2位とトップクラスです。
- **純利益は2012年度以降順調に拡大**
- **ROE: 6.4% (2015年度、前期比+1.2pt)**
- **強固な財務基盤で高い格付け A+(S&P)**

社会的課題の解決を通じて価値を創造

- **グループ4万人が心を1つに経営理念に取り組む**
 - ・経営理念は、「グローバルな保険・金融サービス事業を通じて、安心と安全を提供し、活力ある社会の発展と地球の健やかな未来を支える」。
 - ・従業員約4万人が、さまざまな社会的課題解決への貢献を通じて価値を創造することに取組んでいます。
 - ・具体的には、事故が発生したときに保険金を支払うのは保険会社の重要な機能ですが、事故による被害を最小限に抑え、事故を起こさないことがお客様にとって一番重要と考えています。
 - ・保険商品の提供だけでなく、「雪災事故対策チラシ」の配布、「気候変動への対応支援サービス」の展開、「事故防止・災害に備えるアプリ」の提供など各種サービス提供を通じ、お客様のリスク管理を支援し、リスク発生時の経済的負担を抑えることを目指しています。

成長領域への事業展開

- **国内損保事業: 国内No.1グループ**
 - ・三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保、インターネット販売の三井ダイレクト損保の3社で展開。
 - ・三井住友海上は総合力で優位性のある商品・サービスを提供し、グローバルにビジネス展開しています。
 - ・あいおいニッセイ同和損保は、トヨタ、ニッセイ各グループとパートナー関係を活かした地域密着営業を展開、海外ではトヨタディーラーを通じたりてル事業を展開しています。再生可能エネルギー、農業分野、再生医療分野、テレマティクス技術を活用した自動車保険など時代の変化やお客様ニーズを的確に捉えた新分野の商品開発・サービスも強化中です。
- **国内生保事業: 特色のある2つの事業会社**
 - ・保障型商品を中心に損保代理店を通じて販売する三井住友海上あいおい生命と資産形成型商品を金融機関代理店を通じて販売する三井住友海上プライマリー生命の2つの特色ある生命保険会社がバランス良く展開し、グループ利益拡大に貢献。
- **海外事業: 2016年に英Amlin社買収で業容拡大**
 - ・戦前(1934年)のタイ進出後、アジア中心に展開、アジアの保険事業発展に貢献してきました。
 - ・2016年2月に英ロイズ市場で収入保険料第2位の英Amlin社の買収を完了。アジア・欧州・米州の地域的バランスのとれた事業ポートフォリオになりました。海外事業の正味収入保険料は大幅に増加し、2017年度9000億円超を見込んでいます。

中期経営計画と株主還元方針

- **Next Challenge 2017 (2014-2017)は着実に進展**
 - ・グループコア利益の2015年度実績は1,475億円、また2016年度は1,960億円、2017年度は2,200億円を見込んでいます。グループROEの2015年度実績は5.2%、また2016年度は7.6%、2017年度は7.5%を見込んでいます。
- **配当と自己株式取得で中期的に利益の50%を還元**
 - ・配当と自己株式取得で、中期的に「グループコア利益」の50%を目途に株主還元。安定配当を堅持し、収益力を強化し中期的に増配基調を目指します。2016年度は中間配50円実施、年配100円を予想。10月末に300億円の自己株買いを発表しました。